

北海道 夏山（礼文・利尻・暑寒別・樽前・アポイ） 報告

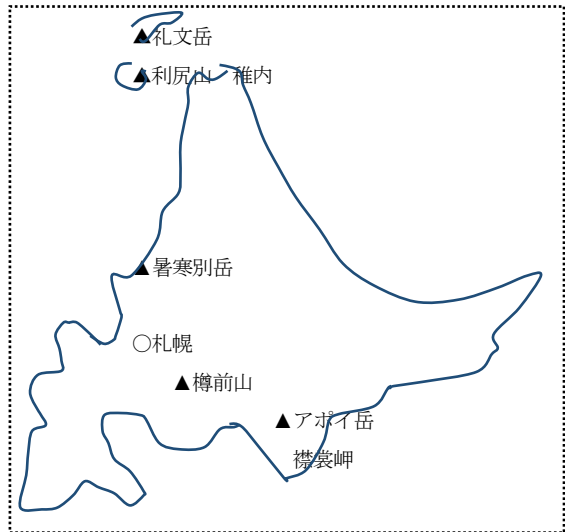
記：労山つりばし 下窪義文

北海道山行シリーズはH24年から5回目となる。東北地方の梅雨明けはまだ気圧配置を気に神戸空港を旅立つ。千歳いか店で手続きを済ませて千歳イオン店で燃料・食材を買い出しする。

道央道を士別市経由でR40を北上し名寄市、豊津町から稚内市内に入る走行430K。

フェリーターミナル駐車場は有料（2千円日）のため稚内道の駅のPで仮眠、一晩中強風でテントを揺らしていた。

- ・とき：2017年7月12日～18日
- ・参加者：下窪 福井 大井
- ・交通：航空機 レンタカー フェリー
路線バス タクシー



（2日目 7/13 礼文島 内路登山口 ⇄4km⇄ 礼文岳 490m 曇り 強風 濃霧）

稚内道の駅に車を止めて礼文島香深港行6:20発に乗船する。風は強いが波は穏やかだ。香深港8:15着、港のコインロッカーにテント寝具装備を預けて宗谷路線バス9:25発で内路へ向かう。内路バス停の礼文岳登山口の標識が目立つ。登山口の階段を登ると地元の人達が道の草刈りをしている。登り始めは晴れ間で遠くの景色も見えていたが、高度を上げると濃霧となり稜線に出ると風が強くなり山頂では南風でまともに立ってられないほど。天気の良いと利尻富士や北にサハリン半島が見えるはずが残念だ。北緯45度では大陸からの低気圧で気象変動を受けやすい。

登山口に戻りタクシーで港へ16:25発鶴泊行フェリーで利尻島へ向かう。鶴泊港から北麓野営場へはタクシーで向い管理棟で手続きを済ませる。

■コースタイム：内路登山口9:53～礼文岳山頂490m11:27～内路13:07

（3日目 7/14 利尻島北麓野営場⇄利尻山 曇り 強風 濃霧）

北麓野営場は昨日から強風で曇り空を4:25出発。甘露水までは遊歩道で整備されている。五合目、六合目当たりから灌木帯で風当たりが強くなる。この様子では山頂付近では暴風にちがいない。登頂を諦めて下山する人が多くなった。29年前に登山した時は長官山に避難小屋がり小屋の環境が悪くテント泊したことがある。

現在の避難小屋は山頂側15分位に建っている。天気が良ければ山頂の眺めや眼下に礼文島やサハリン半島の眺望が最高の所で残念だ。避難小屋には4-5人が休憩していたが山頂を諦めて下山する人もいる。

30分位様子を見たが登頂を断念し下山、テント撤収してタクシーで鶴泊港へ向う14:35発稚内行きフェリーで利尻島を後にし次の目的地へ向かう。ノジャップ岬からR232和らひをサロベツ原野を南下し100k位の遠別町に入る。富士見台公園キャンプ場を今夜の宿としリストハウスで手続（500円張）キャンプ場は私達だけで今宵の宴を開く。



内路バス停



礼文岳山頂



北麓野営場



七合目付近強風

■コースタイム：北麓野営場 4：25～五合目 5：36～長官山 7：20～利尻避難小屋 7：34～登山口 11：15

(4日目 7/15 増毛町 箸別避難小屋 ⇨9.5km⇨ 暑寒別岳 1491m 晴れ 曇り)

暑寒別岳へは箸別ルート 9.5k・暑寒ルート 10k・雨竜ルート 12.4k があり距離の短い箸別ルートを選定する。R232 から R231 を増毛町箸別郵便局の暑寒別岳登山口標識 13km を箸別川添いに A S 道を進むと箸別避難小屋 P に着く。駐車場は整備され 30 台のスペースに 10 台駐車有。朝食を済ませクマよけを鳴らして出発する。1 合目ごとに標識があり七合まではダケカンパと低層草食で蒸し暑く汗の臭いに虫がよってくる。追い払うとしつこく着いてくるので長袖に虫除けネットは必要だ。七合目からお花畑とハイマツの高山帯となりワカボシの群生が出迎え、山頂まではお花畑と景色を楽しみながら、九合目からは台地状を歩くと山頂に到着する。雨竜沼湿原からの登山者も多くいた。ゆっくりとコースタイムと景色を楽しみ元来た道を下山する。登山道ではヒグマノ糞 2 か所あったが遭遇しなかった。次の目的地支笏湖へは R231 を石狩から札幌市内に入り市内スーパーで食材を補給して R453 を支笏湖湖畔国民休暇村キャンプ場に入る。湖畔は満杯状態で片隅にテント設営 800 円人と高額だった。



■コースタイム：箸別避難小屋登山口 6：24～七合目 9：22～暑寒別岳山頂 10：28～箸別避難小屋登山口 14：12
(5日目 7/16 苫小牧市 樽前山七合目 ⇨7.2k⇨ 樽前山 (西山～東山) 1022m 曇り)

樽前山七合目まで車で入り八合目からは火山帯特有のザレキ歩きで一面にタルマエソウが咲いている。外輪山に取付くと真ん中に噴煙を上げるドームを中心に時計回りに樽前山神社奥宮から西山ピーク 994m、東山ピーク 1023m と一周 (4.8k) する。下山するころドームに雲が掛かり天気は下り坂となる。七合目で仲間と合流して苫小牧から日高道を新冠、新日高、浦河、様似町に入る。JR 日高本線終点の様似駅を見学、アポイ岳登山口となるビジターセンターに立寄る。襟裳岬は観光客も多く岬先端では幻想的な夏海霧現象を見ることができた。百人浜キャンプ場でテント設営してから近くの高齢者施設のお風呂に入る。夕方に雨が降り出し今宵はジンギスカンで乾杯する。



■コースタイム：七合目 5：15～稜線分岐 5：50～西山 984m～東山 1022m 7：04～七合目駐車場 7：32

(6日目 様似町アポイ岳ビジターC ⇨ アポイ岳 810.6m 曇り)

アポイ岳は、日高山脈の南端付近の西南海岸に位置する山で、約 1300 万年前の日高山脈の形成に伴い地下数 10km の上部マントルが上昇露出したとされている。幌満かんらん岩体により 2008 年に日本ジオパークネットワークに認定され知られている。6 年前に登山した時はストックのピックカバーが無く厳しく注意されたことがある。今年 5 月に登山口でヒグマ出没の看板あり、1 合目毎にクマよけの釣り鐘が吊るされて鳴らしながら行動した。



アポイ岳は標高低いが高山植物が多くヒダカソウ等天然記念物に指定されている。五合目までは針葉樹林帯で、六合目からハイマツの高山帯となり高山植物が多く見られる。

八合目から急登に入り、山頂付近ではダケカンパの灌木帯となる不思議な形態となっている。

■コースタイム：登山口 6：20～五合目小屋 7：35～アポイ岳山頂 8：56～五合目小屋～登山口 11：33

(7日目 最終日 襟裳町 ⇨ 千歳市内・新千歳空港 ⇨ 神戸空港)

最終日はのんびり観光で、襟裳百人浜から R235 を様似町に立寄りジオパーク見学。マガマの造形ともなっているエンム岬と親子岩、ヒラウ岩、観音山展望台からアポイ岳と太平洋を眺望する。新冠町ではレ・コトパーク道の駅で競走馬のふるさとに立寄り名馬産地として有名で優勝馬の記念碑が多く展示されている。

千歳市内でレンタカーを返却して長かった山旅も終わりで余韻を残して北海道を後にした。

(会計報告) 参加費 ¥50800/人 (内訳：航空機代 21800 円人 レンタカー 高速 ガソリン テント場 入浴食材)

